

## 【解説】ハイブリッド戦争

2022 年 4 月 9 日

大村 哲

### はじめに

皆様もご覧になっていることと思いますが、ロシアのウクライナ侵略が始まって、メディアでは様々な戦争解説がなされている。戦争に関しては古典的なクラウゼヴィッツの『戦争論』が有名です。「戦争とは他の手段をもってする政治の継続である」という主張をお聞きになった方も多いでしょう。

素人的に、現代の戦争の変遷を追ってみると、[戦争の主目的の変遷]は、①冷戦(相互抑止と代理戦争)、②民族解放戦争(ベトナム)、③民族紛争(ユーゴスラビア)、④非国家主体への対テロ戦争(9.11、アフガニスタン、イラク、シリアなど)、⑤覇権国家による「ハイブリッド戦争」、となる。

「ハイブリッド戦争」という新しい戦争形態と戦争手段が、2014 年のロシアによるクリミア併合、ドンバス地方(ドネツク、ルガンスク)での独立運動と、現在まで継続しているロシアの介入によって世界の注目を集めるようになった。本稿では、この新しい「ハイブリッド戦争」を紹介する。



### 1. 基本概念

#### 1.1 「ハイブリッド戦争」(文献[1])

ハイブリッド戦争という言葉が最初に考え出したのは、米海兵隊のジェームズ・マティス中将与海兵隊退役大佐のフランク・ホフマンである(2005 年)。

最近の戦争のあり方は、「現代型戦争」、「新しい戦争」、「現代戦」、「21 世紀の戦争」、「新世代戦争」などと呼ばれるようになった。松本太氏は、戦争の変質を、①軍事技術の発展、②国際法の変遷、③非国家主体の台頭で説明し、その特徴を 6 点で説明している。「①戦いの目的が、敵国家に対する勝利ではなく、むしろ自らにとってより望ましい条件を作り出すことに替わり、②戦場に出て戦うのではなく、一般市民のなかに入り混じって戦うようになり、③紛

争は終わることがなく、果てしのないものとなり、④戦いでは当事者はすべてを賭けず、兵力を温存するように戦い、⑤古い兵器や組織が新しい用法で用いられ、⑥交戦している双方が国家ではないという傾向を有するようになる」。

#### 1.2 「超限戦」(文献[6])

超限戦という言葉を考え出したのは、中国人民解放軍大佐の喬良と王湘穗である(1999 年)。

その戦争の性質や戦略について、文献[6]第 1 部は新戦争論、第 2 部は新戦法論を解説している。2 人の著者は、25 種類にも及ぶ戦闘方法を提案し、通常戦、外交戦、国家テロ戦、諜報戦、金融戦、ネットワーク戦、法律戦、心理戦、メディア戦などを列挙。戦争の原理として、全方向度、リアルタイム性、有限の目標、無限の手段、非均衡、最少の消耗、多次元の協力、全過程のコントロールと支配を挙げ、このような戦争は、別に中国に限らずグローバリゼーション時代の戦争に特徴的なものであり、軍人と非軍人の境界も曖昧化する。したがって、単に戦争手段の多様化だけではなく、それに対応した安全保障政策や戦略も重要になる。

#### 1.3 米国の戦争戦略

米国ではこの戦略を「オール・ドメイン・オペレーション」と呼んでいる。(文献[5])

### 2. ハイブリッド戦争の手法

#### 2.1 ロシアの「新世代戦争」の目的(文献[1])

(Step1) 敵対国のモラルをくじき、連帯を打ち砕く  
(Step2) 武力戦争に寄与しうる、軍、ゲリラ、国家組織などを掌握する

(Step3) 心理的観点から価値あるものを掌握または破壊する

(Step4) 物質的に価値あるものを掌握または破壊する

(Step5) 「外部性の達成」。つまり、新たな同盟における勝利、同盟を増強

### 3. 軍事組織とハイブリッド戦争対応部隊

#### 3.1 ロシアの軍事組織(文献[1])

・ロシア軍の人員：実勢 90 万人(徴兵 25 万、職業軍人 21 万、契約軍人 40 万)+予備役

・陸軍(SV)・海軍(VMF)・航空宇宙軍(VKS)・空挺部隊(VDV)・戦略ロケット部隊(RVSN)

- ・5つの軍管区と各軍管区の統合戦略コマンド(OSK)
- ・戦略抑止戦力＝戦略ロケット部隊(RVSN)＋海空軍の戦略核部隊(プーチンが指揮)
- ・連邦保安庁(FSB・旧 KGB)配下に国境警備隊、対テロ特殊部隊
- ・非常事態省(MChS)
- ・国家親衛軍庁(FSVNG)：国内軍(VV)、機動隊(OMON)を国家親衛軍(VNG)に統合
- ・民間軍事会社(PMC)：ワグネル、コサック、E. N. O. T. Corp, スラブ軍団, ATK Group, Centre R, MS Group, MAP, Anti-terror, RSB Group がある。ウクライナ東部、シリア、リビアなどで暗躍
- ・サイバー組織：スターダストチョリマ(APT38)、(APT28)、(APT29)、インターネットリサーチエージェンシー(IRA)、①政府系、②民間会社、③犯罪組織、④愛国者の4種類がある。

政府系はロシア連邦軍参謀本部情報総局(GRU)、連邦保安庁(FSB)、連邦対外情報庁(SVR)、ロシア連邦警護庁(FSO)の配下にあると考えられている。

### 3.2 中国の軍事組織

- ・中国人民解放軍, 中国人民武装警察部隊, 中国民兵
- ・ドメイン別戦力：陸軍 海軍陸戦隊 空軍空降兵 海軍 陸軍船艇部隊 空軍 海軍航空兵 陸軍航空兵 ロケット軍 海軍核潜部隊 空軍爆撃機部隊 戦略支援部隊 航天系統部 戦略支援部隊 網絡系統部 駐特別行政区部隊 駐香港部隊 駐マカオ部隊
- ・海上民兵：20万隻の漁船、1400万人の漁民が、政治教育を受け武器も所持している。

このように、中国は南シナ海のベトナム領海でも、フィリピンなどASEAN諸国領海でも、海上民兵を使った準軍事行動と圧力を強めている。これもハイブリッド戦争＝超限戦の手法である。

- ・サイバー部隊：アンカーパンダ(APT14)、ディープパンダ(APT19)、ゴブリンパンダ(APT27)、ムスタングパンダ、サムライパンダ(APT4)

### 3.2 米国の民間軍事会社

AirScan, ATAC, Defion International, ダインコープ・インターナショナル, ドラケン・インターナショナル, ITT Corporation, KBR, Military Professional Resources Inc., MVM, Inc., Northbridge Services Group, ノースロップ・グラマン, Paratus World Wide Protection, レイセオン, Triple Canopy, Inc., Sharp End International,

Titan Corporation, Vinnell Corporation, Academi, Pathfinder Security Services

### 3.2 英国の民間軍事会社

G4S, イージス・ディフェンス・サービシーズ, アーマー・グループ, Control Risks Group, エリニクス・インターナショナル, サンドライン・インターナショナル

## 4. ハイブリッド戦争の例

### 4.1 ウクライナ

#### 4.1.1 ロシア軍のクリミア半島占領作戦(文献[1])

**先鋒**：特殊作戦戦力コマンド(KSSO)の精鋭特殊部隊「セネーション」と独立兵科の空挺部隊(VDV)に属する第45特別任務連隊の兵士

**後続**：海軍歩兵部隊(ロシア黒海艦隊母港)に接岸。物資輸送の名目で、ヘリコプター編隊(海軍の特殊部隊兵士を満載)を半島内のウクライナ空軍の飛行場へ。飛行場を占領。

**橋頭堡確保後**：輸送艦や輸送機で、続々と増援を送り込んだ。参謀本部情報総局(GRU)隷下のスベツナツ旅団4個、スベツナズ連隊1個、VDV第31空中爆撃旅団の一部

#### 4.1.2 ロシア軍のウクライナ侵攻(文献[2])

**第1の危機**：(2013年11月末～14年2月末)

「ユーロマイダン」から「ユーロマイダン革命」へ、ヤヌコーヴィッチ大統領失脚・露に亡命

**第2の危機**：(2014年2月末～3月後半)

2/27に暫定政権成立・ロシア特殊部隊のクリミア展開と3/11の独立宣言、3/17にロシアがクリミアの独立承認、3/18に編入条約署名、3/20ロシア議会の手続きも終了し、クリミア編入の既成事実化へ

**第3の危機**：(2014年3月後半～現在)

東部の混乱と欧米の対露制裁。5/11の東部2州住民投票と独立の決議。5/25のウクライナ大統領選挙のボイコットと2州による共和国連合宣言。6月以降の戦闘激化と7月のマレーシア機撃墜事件。対露制裁がピークに。8月にウクライナ政府が親露派に対する包囲網を狭めるも、親露派が盛り返し、9月に停戦へ。11月に停戦無効になり、戦禍が拡大するも15年2月15日に2度目の停戦発効。

19年12月9日に約3年ぶりのウクライナ、ロシア、ドイツ、フランスによる首脳会議が開催され、15年に4ヶ国が合意した親露派地域での選挙や、ロ

シアが強く主張する「特別な地位」と呼ばれる親露派への自治権付与が議論された。2019 年末までに捕虜交換を含む「完全かつ包括的」な停戦を達成することで合意し、2020 年 3 月までに、さらに 3 地域で双方の軍の撤退が決まったが、継続協議になった事項も多く、停戦の行方はまだ見えない。



#### 4.1.3 ドンバス地方の紛争経緯

☆最初に紛争を起こしたのは親露派の「人民知事」や「人民市長」であった。

☆「ドネツク人民共和国」「ルガンスク人民共和国」を名乗る

○ウクライナ政府の「対テロ作戦(ATO)」部隊が反撃開始

☆ロシアから多数の「民兵」が参戦

○ウクライナ軍の問題点：陸軍 4.1 万人の内、戦闘に投入できたのは 6 千人だけ

装甲戦闘車両操縦士の内、戦闘任務を遂行できるのは 20%、軍用機パイロット、防空部隊要員では 10%、ロシア系ウクライナ軍人の中から、寝返る者も出た

☆2014 年 5 月、ロシアから地対空ミサイルを入手。マレーシア旅客機を撃墜

☆ロシアの戦略変更：2014 年 8 月、4 千人のロシア軍正規部隊を投入

☆ウクライナ軍敗退し、[第一次ミンスク合意](#)締結

☆2015 年 1 月、デバリツヴォ市で激しい戦闘発生

露軍が「電子戦システム」や「防空システム」支援を実施

2014 年から続くドネツク紛争で、露軍が投入した手段〔後述〕が効果を発揮し、露軍が優勢に戦局を展開し、ウクライナ軍を「レーベント 1」(ドローン妨害システム)、「ヴィリーナ」(AI 搭載電波妨害システム)、「クラスーハ 2」(電波妨害システム)、「ルール 3」(携帯通信妨害システム)などを駆使し、戦局を有利に進め、ウクライナ軍を、攻撃しやすい場

所に誘導し、実戦力により勝利することで、ウクライナ軍を包囲し、降伏に追い込むことに成功した。

ウクライナ部隊またも包囲さる⇒[第二次ミンスク合意](#)締結

#### 4.2 ジョージア(旧グルジア)

2008 年の南オセチア戦争では、陸戦、航空戦、海戦の全てが行われた。サイバー戦も行われグルジアの指揮系統が混乱させられ 5 日間で戦争が終わった。民族主義を煽られたアブハジアと南オセチアをロシアが占領し実効支配。住民にロシアのパスポートを配布。日々国境線を拡大移動させている。未承認国家であるアブハジアと南オセチアをロシアが国家承認した。2008 年のロシア-グルジア戦争で結ばれた「停戦協定」は曖昧な表現で、ロシア軍の駐留が続いている。



#### 4.3 バルト 3 国

《エストニア》：ロシアは、ロシア系住民の暴動を煽動し、2007 年、ロシアからと見られる大規模なサイバー攻撃を受けた。エストニアの銀行、通信、政府機関、報道機関などが標的。後に「タリン事件」と呼ばれるようになった。

《リトアニア》：2008 年に、ロシアからのサイバー攻撃を受けた。⇒エストニアは、サイバー教育に熱心に取り組み、国民に「サイバー衛生」をたたき込み、「サイバー部隊」を立ち上げた。

#### 4.4 香港

香港では、米国政府の資金が「反中国の市民団体」に渡っていたことが、報道されている。香港では、星条旗をかかげ反中国を主張した「市民運動」が展開された。中国系企業・商店に対する襲撃が繰り返された。市街施設の暴力的破壊も報道された。

これを「ハイブリッド戦争」の視点から見ると、香港の政情を混乱させるという米国系ハイブリッド戦争勢力の工作が一定程度成功したと評価できるだ

ろう。(それに乗せられた香港市民の政治的未成熟は指摘されており、今後の世界の教訓になるだろう)。その香港情勢を受けて、中国政府が取ったのは、香港自治への介入であった。結果として、香港または中国にハイブリッド戦争を仕掛けた米国は「香港市民の感情や政治志向」を見捨てて、同地域に混乱をもたらし、中国を悪者にすることに成功し、米国の「目的」を達成した形になっている。

#### 4.5 南シナ海／東シナ海

南シナ海においては、中国の海上民兵に属する漁船が、ベトナムの主権海域で中国のボーリング掘削を支援したり、フィリピンが主権をもつスプラトリー諸島のウィットサン礁周辺に中国海上民兵の漁船が居座り、フィリピンの漁船を追い払ったりしている。中国の「超限戦」≡「ハイブリッド戦争」の具体的現れが、これらの地域で表面化している。

尖閣諸島(釣魚島)でも、中国の公船(海警局という警察組織という解釈が日本では多いが、実は中国軍の一部に位置づけられている)と漁船(海上民兵)が、

尖閣列島の領海を日々侵害している。

#### 4.6 2016年米大統領選挙へのサイバー介入

ロシアは、クリントンが当選すると思い、当選後の評判下落を目的に民主党のメールを中心にハッキングし、ウィキリークスと共同して、順次内容を暴露した。トランプがロシアと共謀して関与していたかどうかは、立証されていない。しかし、大統領選挙戦は、大方の予想に反してトランプが大統領に当選した。トランプは、国内の対立を煽り、米国はAmerica First で世界から孤立し、米国の相対的な力が低下した。このように、対立や分断があるところは、ハイブリッド戦争の恰好の標的になる。ロシアはとても安い経費で、米国の国力を弱めることに成功した。

#### 5. まとめ

本稿は、「ハイブリッド戦争」という概念があることを紹介するイントロダクションに過ぎない。もっと詳しく知りたい方は、参考文献をお読みください。

#### 付1. 参考文献

- [1]小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』(ちくま新書, 2021/5)
- [2]廣瀬陽子『ハイブリッド戦争 ロシアの新しい国家戦略』(ちくま新書, 2021/2)
- [3]ジム・スキアット『シャドウ・ウォー 中国・ロシアのハイブリッド戦争最前線』(原書房, 2020/3)
- [4]佐々木孝博『近未来戦の核心サイバー戦 情報大国ロシアの全貌』(扶桑社, 2021/10)
- [5]志田淳二郎『ハイブリッド戦争の時代』(並木書房, 2021/5)
- [6]喬良『超限戦 21世紀の「新しい戦争」』(角川新書, 2020/1)
- [7]廣瀬陽子『ロシアと中国 反米の戦略』(ちくま新書, 2018/7)
- [8]一田和樹『フェイクニュース 新しい戦略的戦争兵器』(角川新書, 2018/11)

#### 付2. 日本政府の最近の動き

- (1)北方領土「ロシアに不法占拠」約20年ぶり明記 外交青書原案に
- (2)自衛隊、沖縄にも「電子戦部隊」配置 電磁波という新領域への対応を強化 台湾や尖閣にらみ
- (3)対ロシア制裁

[https://www.meti.go.jp/policy/external\\_economy/trade\\_control/01\\_seido/04\\_seisai/crimea.html](https://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/01_seido/04_seisai/crimea.html)

- (4)ウクライナ・周辺国人道支援

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4\\_009330.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_009330.html)

#### 付3. ウクライナ戦争に対する欧米の対応

- (1)バイデン「G20からのロシア追放」を提案
- (2)国連総会「国連人権理事会から露を追放」を採択
- (3)チェコが戦車をウクライナに供与
- (4)米が、携行式地対空ミサイル「スティンガー」1400発以上、「ジャベリン」5000発以上を含む対戦車ミサ

- イル 1 万 2000 発以上、自爆攻撃機能を持つ無人ドローン「スイッチブレード」数百機、小火器 7000 丁以上、弾薬 5000 万発以上、レーザー誘導式ロケットシステムなどをウクライナに供与
- (5)イーロン・マスクが Star link を提供し、ウクライナからの SNS 発信が可能に。ウクライナ軍内での情報共有が可能に。
- (6)ロシア軍が予備兵約 6 万人を投入する見通し
- (7)ジョージア（旧グルジア）（露軍人約 1 万人が駐留）から、ウクライナ侵略戦争に投入されるため移動させられた露軍兵士 1200 人+800 人の内、約 300 人が脱走した。（廣瀬陽子，共同通信）
- ※停戦交渉は行われているが、戦争は長期化しそうだ。

#### 付 4. 主要参考文献の【目次】

##### 小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』【目次】

###### はじめに

「ポスト冷戦」時代の終わり…揺らぐ国際秩序／軍事力の「効用」／非軍事的闘争論／テクノロジーは戦争を変えるか／本書を理解するための基礎知識

#### 第 1 章 ウクライナ危機と「ハイブリッド戦争」

##### 1 NATO 拡大…東欧でのオセロゲーム

リガ空港の「バックファイア」／倉敷に人民解放軍の基地ができた／後退する「戦略縦深」／小さな軍事大国／「アフガニスタンのことを考えて眠る」／「勢力圏」と「大国」きたこと

##### 2 ウクライナで起きたこと

瞬く間に失われたクリミアとドンバス／人間の「認識」をめぐる戦い／ドローン戦争／米兵隊も舌を巻くロシアの電磁波作戦能力／ウクライナのインフラを麻痺させたサイバー攻撃

##### 3 「ハイブリッド戦争」をめぐる

非クラウゼヴィッツ戦争？／「360 度同盟」へ／「ハイブリッド戦争」論の起源／戦争の「特徴」と「性質」／古くて新しいハイブリッド戦争／ハイブリッド戦争に関する 3 つの論点

#### 第 2 章 現代ロシアの軍事思想…「ハイブリッド戦争」論を再検討する

##### 1 非軍事的闘争論の系譜

ロシア軍参謀総長が語る 21 世紀の戦争／レーニンとクラウゼヴィッツの戦争理解／スリプチェンコの「非接触戦争」論／情報の力…メッスネルの「非線形戦争」論／パナーリンの「情報地政学」理論／ロシアの疑心暗鬼／軍隊は役立たずに？

##### 2 「永続戦争」の下にあるロシア

「カラー革命」への脅威認識／戦場としての言論空間／NGO を「外国の手先」と認定／若者の心を掴め／プーチンの市民社会論／ロシアはなぜ米国大統領選に介入したか

##### 3 「カラー革命」に備えて…ロシア国内を睨む軍事力

プーチンの「親衛隊」／国家親衛軍をめぐる権力関係／ゲラシモフ演説に見る脅威認識／コロナ危機とプーチン政権

##### 4 それでも戦争の中心に留まる軍事力

思想と実践の間／ゲラシモフ演説を読み直す／ドクトリンではなくハッパ／予測の困難性を超えて

#### 第 3 章 ロシアの介入と軍事力の役割

##### 1 ウクライナ紛争に見る軍事力行使の実際

クリミア半島での電撃戦／二転三転するドンバス紛争／軍隊は強い／親露派武装勢力の「戦う理由」／「ハイブリッド戦争」と「ハイブリッドな戦争」

## 2 中東での「限定行動戦略」

シリア紛争を一変させたロシアの介入／愛国者公園にて／「第6世代戦争」の入り口／「精密攻撃」と残虐性の価値／介入戦争を可能にした限定行動戦略

## 3 特殊作戦部隊と民間軍事会社

シリアに送り込まれたロシアの秘密部隊／平時と有事の間で戦う特殊作戦部隊／砂漠に咲くひまわり／民間軍事会社「ワグネル」の誕生／ワルキューレの騎行 … ドンバス紛争とワグネル／ワグネルの「事業モデル」／リビアでの敗北／「ワグネルって何ですか？」

## 4 「状況」を造り出すための軍事力

「勝たないように戦う」／「解凍」されたナゴルノ・カラバフ紛争／ドローン「ゲーム・チェンジャー」か？／「意志のせめぎ合い」としての戦争／アゼルバイジャンの「読み勝ち」／エスカレーションを抑止する／暴力の行使という溝

# 第4章 ロシアが備える未来の戦争

## 1 大演習を見る視角

秋は演習の季節／そもそも演習とは／演習の読み解き方

## 2 対テロ戦争、大規模戦争、「カラー革命」

変貌するロシア軍／対テロ戦争の時代…「カフカス」と「ツェントル」／「第6世代戦争」に備える／兵士のブーツ／ウィキリークスが暴いたロシアの核戦争訓練／対「カラー革命」演習？

## 3 「新しい戦争」と総力戦

ロシアから見た「アラブの春」／総力戦の復活／巻き戻されるセルジュコフ改革とウクライナ危機の影／「新しい戦争」

## 4 国家に支援された非国家勢力との戦い

ミサイルを駆使する「テロリスト」？／「北方連邦」vs「西方連合」／「偶然の一致」…大演習に続く核戦争演習／史上最大規模の「マニョーブル」／4つの戦争モデル

## 5 演習をめぐるポリティクス

演習規模をめぐる狂騒曲／極東演習と日本／及び腰の日本政府／中露合同演習の虚実

# 第5章 「弱い」ロシアの大規模戦争戦略

## 1 劣勢下での戦い方

大陸国家ロシアの宿命／「損害限定戦略」／疑惑のミサイル 9M729／「鏡面的措置」で対抗するロシア

## 2 戦場化する宇宙

凋落する宇宙大国／「宇宙優勢」を目指して／人工衛星に対する「ソフトな」攻撃／ロシアの宇宙状況監視能力

## 3 ロシアの核戦略…「エスカレーション抑止」をめぐる

破滅を避けながら核戦争を戦う／「エスカレーション抑止」論の浮上／公開された機密文書の中身／通常兵器によるエスカレーション抑止／極超音速兵器とレーザー兵器

## おわりに

ロシア流の戦争方法／プーチン・システムの今後／「永続戦争」はどこまで続くか？／「西側」としての日本の対露戦略

あとがき…オタクと研究者の間で

## 廣瀬陽子『ハイブリッド戦争 ロシアの新しい国家戦略』【目次】

### プロローグ

「大統領の料理長」／ハイブリッド戦争のキーパーソン／「冷戦」の再来／ハイブリッド戦争という脅威／戦い方が変わった／外交としてのハイブリッド戦争

### 第1章 ロシアのハイブリッド戦争とは

正規戦と非正規戦／21世紀の新しい戦争／低コストで大きな効果が得られる／ハイブリッド戦争の国家戦略化／ゲラシモフ・ドクトリン？／「非接触型」「非線形戦争」…／ハイブリッド戦争と北方領土問題／ジョージア、ウクライナ、バルト海…探りとハイブリッド戦争／敵対国の同盟関係に揺さぶりをかける／特殊任務部隊、インテリジェンス、政治技術者…ハイブリッド戦争の担い手／コサック／民間軍事会社とは／アウトソーシングの理由／暗躍するロシアのPMC／PMCという外交の有用なツール／ロシア最大のPMC「ワグネル」／実態は国営の軍事会社／E.N.O.T. CorpとMAR／シャープパワー戦略／ウクライナ危機／クリミア併合／大人の対話を演出／クリミア併合は準備されていたのか？／サイバー攻撃・電子戦を取り入れた戦法

### 第2章 ロシアのサイバー攻撃と情報戦・宣伝戦

戦争や紛争から切り離せないサイバー攻撃／攻撃者の多様化、低年齢化／サイバー攻撃への対応の難しさ／サイバー攻撃の種類・手段は多様／「標的型攻撃」と「ばらまき型攻撃」／圧倒的に多い国家レベルの関与…ロシアのサイバー攻撃／侵入からシステムダウンまで18分／把握しにくい政府系と愛国者たち／ロシアのサイバー攻撃の変化／各組織が個別に動く／1000人のサイバー軍要員／「APT28」…フィッシングメッセージとなりすましウェブサイト／ハッキング実行部隊の身元／「APT29」…セキュリティを巧妙にすり抜ける／旧ソ連諸国を対象にする「ブードゥー・ベア」／ベノモウス・ベアの巧妙な指令メカニズム／全容は把握できないAPT攻撃／攻撃元IPアドレスの国別比較／IT大国エストニア／170カ国8万台からの大規模なサイバー攻撃／「サイバー衛生」…エストニアの対策／ハイブリッド戦争の「実験場」ジョージア／ジョージア側のサイバートラップ／フェイクニュースと情報戦／400人24時間態勢で投稿…IRAトロール工場／プリゴジンの幅広い仕事／プリゴジンへの疑惑の数々／ロシアの2016年米国大統領選挙介入プロジェクト／米国の選挙区をまわる…翻訳者プロジェクト／つくられた「世論のリーダー」／1億2600万人の米国人が見たIRAのプロパガンダ／GRUのハッキングの手法…2016年米国大統領選挙／サイバー空間での中露の結束／コロナワクチン開発をめぐるサイバー攻撃／長期にわたるドイツへのサイバー攻撃／「200万件の陰謀論」…コロナ禍のフェイクニュース／ロシアは自国ではフェイクニュース対策を怠らない／新しい手法のサイバー攻撃…2020年米国大統領選挙／2020年年末に米国を襲った衝撃…ロシアによる大規模サイバー攻撃の事実

### 第3章 ロシア外交のバックボーン…地勢学

脚光を浴びる地政学／ユーラシア主義と大西洋主義／ドゥーギンの地政学／全欧州のフィンランド化という目的／ユーラシア大国のための構想／モスクワ・ベルリン枢軸／モスクワ・テヘラン枢軸／モスクワ・東京枢軸／プーチンの領土の判断基準／「勢力圏」の維持…プーチンのグランド・ストラテジー／「勢力圏」に対する外交の戦術・手段／ユーラシア連合構想／「狭間の政治学」／ロシアの地政学的外交の現実／ロシアのほんとうの狙い

### 第4章 重点領域…北極圏・中南米・中東・アジア

ハイブリッド戦争の次なるターゲット／旧ソ連圏の恐怖心／北極圏の戦略的・経済的意義／天然資源の宝庫…海底に立てられたロシア国旗／北極海航路の利権争奪戦／砕氷船の中露パワーゲーム／「北極海航路は最初で最後の防衛線」／中国との協力は不可避／北極海航路の終点としての北方領土／影響力を強め

ようとする動き／ロシアの中南米重視姿勢／ニカラグアへの軍事支援／ベネズエラの米露代理戦争／米国と中国を意識…アジアや太平洋諸島の重要性／インドとロシアの関係深化／地中海に面したシリアの戦略的意義／ISIS に対する勝利宣言

## 第5章 ハイブリッド戦争の最前線・アフリカをめぐる

アフリカでの活発な動き／アンゴラ内戦の経験／2006 年という転機／原子力発電プロジェクト／存在感を高めるためのハイブリッド戦争／アメリカの警戒心／ロシア・アフリカサミットおよびロシア・アフリカ経済フォーラム／アフリカにとっての新しい選択肢／ロシアの「安全保障の輸出」戦略／群を抜くアルジェリア…ロシアの武器輸出／テロや反乱に対抗するための協力／「安全保障のジレンマ」／「グレーゾーン」への「安全保障の輸出」／「マイアシーダイパー事件」の波紋！…準軍事的支援／サハラ以南のアフリカで用いているスキーム／最も危険で貧困状態にある国…スーダン／反政府デモへの弾圧も／ロシアの新しい拠点／激しい内戦…中央アフリカ共和国 (CAR)／ロシアの手腕に対する高い評価／外国人の構成員／国際社会への不信という背景／政治介入の 5 つの要素／非軍事的なアプローチは成功しているか／トロール工場としてのアフリカ／米国を標的／フランチャイズ化／平和と安定を保障しているのか／3 つの柱

### エピローグ

## 付5. 中国による米軍事機密窃盗例

米国 F35 戦闘機



中国 J31 戦闘機



驚くほど似ている。FBI が逮捕したスティーブン・スーという中国スパイの長年にわたるハッカーの暗躍があった。2014 年に逮捕され、有罪判決が下った。文献[3]